

企画課

地域活性化の期待膨らむ 県大研究開発助成事業報告会

市と県立広島大学は2月3日、庄原市ふれあいセンターで県大助成事業報告会を開催しました。「ドングリ肥育による養豚の確立」「マツタケ山再生」など6件の研究課題について、研究者が成果や課題を発表。市民や事業者など約120人の参加者は熱心にメモを取り、今後の展望などに

ついて夢を膨らませていました。この助成事業は、県立広島大学の知的資源を地域活性化に活かそうと、市が平成17年度から実施しており、これまで14事業を採択しています。今後、「しゅうばら産学官連携推進機構」を中心に、研究課題の事業化に取り組んでいきます。



各研究者が事業内容を発表



白菜漬けのポイントを説明する吉田幸枝さん

農林振興課

漬物の技を伝え販売促進 食農ネットワーク庄原「漬物伝承講座」

地域資源を利用した農業振興を検討する「食農ネットワーク庄原」が1月29日、食彩館しゅうばらゆめさくらで「漬物伝承講座」を開催しました。漬物の技術を伝えることで、地産地消の促進や加工された農産物の販売につなげ、農家所得を向上させることが

狙い。35人の参加者は、伝統的な白菜漬けやかぶの浅漬けを体験しました。参加者は「本などを読んだだけでは理解しにくいので、実際に見聞きできるイベントで良かった」と熱心に質問していました。その後、漬物の試食会、手作り紙芝居の披露なども行いました。この「食農ネットワーク庄原」は、「食」と「農」をつなぐ組織として市が設置しています。

農林振興課



春野菜の栽培方法を指導 野菜栽培講座

市の営農指導員が2月5日（25日、JA庄原（株）庄原市農林振興公社・県北部農業技術指導所と連携し、市内7会場で「野菜栽培講座」を開催しました。

これから迎える春野菜の栽培技術や、生産から販売までの仕組みについて紹介し、農家所得の向上につなげることを目的に企画したものです。参加者は「具体的な作目をあげて説明され非常に良かった。定期的な講座を開いてほしい」と話し、栽培意欲を高めていました。市の営農指導員は、市農業自立振興プロジェクトに基づき設置したもので、農家と就農を目指している方に初歩的な技術指導などを行っています。お気軽にご相談ください。